

22. 5. 16 支部研究部に伝えたいこと

「じゃまじゃまサッカー中学年の後半から」

(ボール2個バージョン後)

「ボール1個」バージョンを始めるにあたって

- ・低学年のボール3個、中学年のボール2個までは、教師も初心者を前提
児童の学習を観ながら、教師も技術学習をすすめる。

ボール操作は児童の上達には追いつかないが、教師もたのしむ
今がチャンス、死角の認識(日向に出る)、日蔭にいる味方を引き出すパス、フェイントでパスコースを創る……の技術認識力を着けていくことが大切。



児童ひとり一人の課題や、技術学習の次段階がわかってくる。

留意点

攻・防の技術はそれぞれ単独では上達しない。

攻め優位の状態では、攻めの技術は向上しづらい

防御優位の状態では、防御技術は向上しづらい

攻・防技術の高まり競争が技術やゲーム様相の発展の原動力

児童ひとり一人の「認識力」「ボール操作力」を観る

味方Aから味方Bへパスが通らないとき

双方に課題がある。と、観ることが大切

※ サッカー、じゃまじゃまサッカーの学習では、線審の学習が大切

サッカーやラグビーの線審は、サイドライン 以上に
ゴールラインと平行なラインの観察が大切！

じゃまじゃま1段階では、シュート位置(シュートゾーンからか否か)
ボール1個バージョンの加味されたルールにおける

じゃまゾーン、シュートゾーンの境界線

オフサイドルールにおけるオフサイドの判定

オフサイド学習で、オフサイドポジションの認識は線審が最初

「ボール1個」バージョン（4年生以降）

- ・問題解決学習＝作戦づくり、作戦の結果と評価、課題発見
- ・課題達成へ作戦の修正、コンビネーションの習熟練習
- ・しかし、楽しく学ぶことが大切
- ・最低限度のボール操作力、身体操作力を高める
(インサイドでのトラップ、インサイドキック)

ボール操作

- ・ウォームアップを兼ねたボール操作
ここでは、色々なボール操作の体験（評価対象には絶対しない）
色々なドリブル（アウト、イン、足裏、トー、ヒール）
- ・意図的なコンビネーション・パス
インサイドでのボール操作は全員の習得課題に
注）横からのパスのダイレクトキックは、難しいと考えるな
浮き球のダイレクトシュートは難しい！が、
地面を転がるボールのダイレクトキックは
インサイドでのトラップ・キックの学習時に練習させる

インサイドキックは

- ① 蹴る方向に正対し、軸足を蹴る
方向に向けボールの横に（膝にゆとり）
- ② 蹴り足は、軸足に直角になる
ように開き、
- ③ 軸足の膝を前に送りながら、蹴り足を
前に押し出すようにスイングする。



注 ボールにヒットの瞬間に蹴り足の親指を上げる
(上げることによって、足首が固定される)

強いボールを蹴る

× 蹴り足を強く振る

○ 軸足を大きく踏み込む

(結果的には、蹴り足の振り幅、スピード)

ターンしながらのトラップ + パス

右後ろからのパスに円弧を描きながら走り込み、身体をボールと蹴る方向が見える向きにして、左足でトラップしながら

(ボールを止めずに引く)、

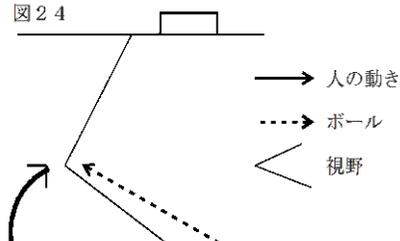
蹴りたい方向に身体をターンさせ、

ボールが蹴る方向に転がり来るタイミングを計り、左足をボール横に踏み込み、

右足でインサイドキックする



図 2 4



ダイレクトキック

右からのパスに、身体をボールと蹴る方向が見える向きにして、

ボールの通過ライン上に左足（軸足）を置き、

軸足にボールが触れる瞬間に右足を振り抜く

南河内の実技で、佐々木さんの妹さん（4年？）が、直ぐにできた



じゃまじゃまボール 1 個の基本ルール

[攻め 3 : 守り 2 ボール 1 個]

攻め

- ・スタートゾーン手前から始め
- ・シュートゾーンにボールを持ち込みシュートする
- ・シュートが成功したり、ボールがコート外に出ても
時間内なら、何度でも全員スタートゾーン手前に戻り攻撃を再開できる

守り

- ・防御はじゃまゾーン内で守り（進路を塞ぐ）
- ・相手ボールを奪ったら、コート外にけり出して良い。

※ パスで攻めるとは書いていない。

将来のプレー姿勢は今から

ボールを持ったとき、パス 100%にならないために

①ドリブル突破か ②パスか

重要空間でボールを持てば、

① シュート、②ドリブル突破、③パス

ねらいによって 基本ルールに「+ルール」をつける

じゃまじゃまサッカーの素晴らしいところ

1. スルーパスの位置（パスが全員の認識になったら）

スタートゾーンでも OK

じゃまゾーン内に限定

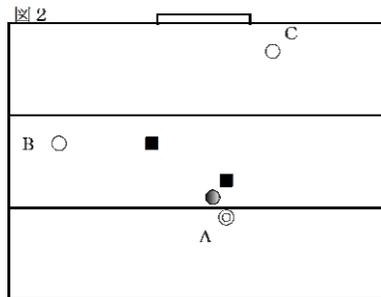
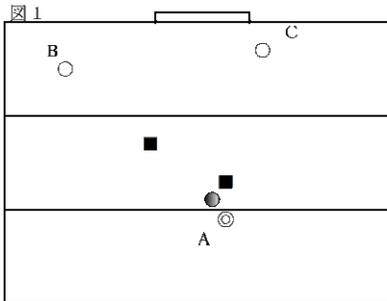
- ・ボール保持者のスルーパス時の駆け引き（ドリブル突破以外にも）
- ・パスを受け取る側のポジションに変化の可能性

ゴール前の者が死角にいて、パスが困難

じゃまゾーン内でパスを受けて、ゴール前へパス

//

リターンパス



2. パス受け者への規制

じゃまゾーン内でスルーパスを受け、ドリブルでシュートゾーンへ

- ・トラップを戸惑っている間に防御が来て、ボールを奪われる。

トラップが練習課題に (4年生)

味方のスルーパス後ならシュートゾーンに入って良い。

- ・ボール保持者と防御の駆け引きを観ながらゾーン移動
オフサイド学習につながる

(ゾーンの境目が固定のオフサイドライン)

防御の規制の変更へ

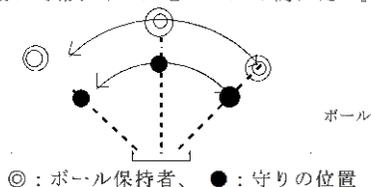
(攻めがシュートゾーンに入れば、防御も入れる)

3. じゃまゾーン内からのシュート OK (防御はじゃまゾーン内)

- ・防御 進路を塞ぐ ⇒ シュートコースを押さえるに

表13 内線防御

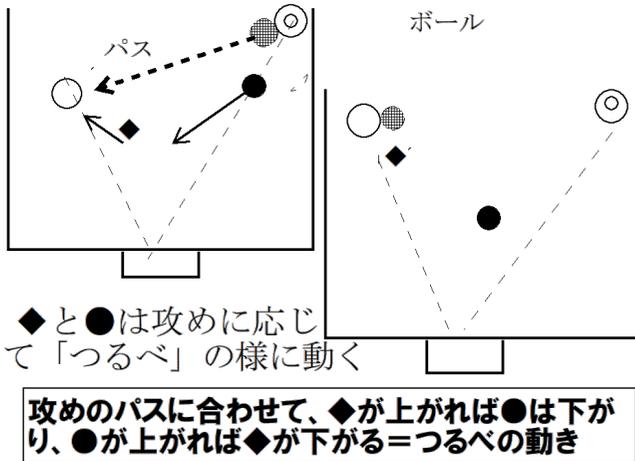
ボール保持者とゴールの間に立って守ること。ボール保持者が動けば、防御も動いて常にボールとゴールの間にたつ。



じゃまゾーンの縦をながくする

・ 防御 第一防御と第二防御のコンビネーション

[図2] ◆：内角防御の位置
●のサポートと、パス受けに走り込む○のマークができる位置=2本の線の間で守る。



じゃまじゃまサッカー 高学年のサッカー学習

- 選択 ① オールコートでの学習へすすむ
攻防の切り替え学習を経て、守りを意識した攻め方
- ② 文化学習 オフサイドの疑似体験学習
- ③ サッカー (ラグビー) 文化の根底にある人間像
ピッチに立った全員が、今何をする (3 つ以上の選択肢から)
を考える能力を育てる学習
EX、アメフトは、監督 ⇒ QB ⇒ 全員の仕事
戦術決定は監督、状況に応じた戦術変更は QB のみ